

地球規模保健課題解決推進のための研究事業（日米医学協力計画）
「日米医学協力計画の若手・女性育成のための日米共同研究公募」
課題評価委員会事後評価意見

研究開発課題名	Strategies to cultivate Mycobacterium leprae and develop drug evaluation methods using fluorescent technique / らい菌の in vitro 培養系の開発とアジア諸国への技術移転
研究開発機関	国立感染症研究所
研究開発代表者・役職	前田 百美・室長
研究開発期間	令和 5 年 9 月 15 日 - 令和 7 年 3 月 31 日

○課題評価委員会事後評価意見

評価された成果

- 長年困難とされてきた蛍光タンパク質発現らい菌を取得し、世界初の試みとしてらい菌と Crithidia との共培養によるらい菌増殖の可能性を示した。
- 本研究で得られた基盤技術は、らい菌の動態や薬剤スクリーニング系の構築への研究展開など、今後のハンセン病研究における幅広い応用が期待される。
- 日本とベトナムの間で技術研修や現地実験などにより信頼関係を維持し、基盤整備と国際協調のモデルとなる実績を残した。

課題・改善点

- 当初の研究目標である蛍光タンパク質発現らい菌株の安定的な樹立や、in vitro 増殖系の確立が望まれる。
- 研究成果の多くは技術的可能性の探索段階にとどまっており、再現性、実用性が求められる。
- 今後は、蛍光タンパク質発現らい菌の具体的な用途や、産業・臨床応用までの道筋を示すことが望まれる。